

令和8年度バスケットボール部の指導方針

1 指導体制

顧問教諭氏名		部活動指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	高橋	礪本	公立学校バスケットボール部指導経験有	週3回
副顧問	長島			
副顧問	鈴木			
副顧問	水越			
副顧問	佐久間			
副顧問	林			

2 年間目標

- (1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像
 - ・日々の練習やトレーニングを通して、健康で豊かな心と丈夫な体を育てる。
 - ・遠征の機会を多く設ける中で、自ら考え、主体的に活動する力を育てる。
 - ・校内外の人と多く関わる中で、社会性や規範意識を育てる。
 - ・部活動での行動様式を明確にし、企業就労に必要な礼儀や態度を育成する。
- (2) 競技大会、コンクール、研発表等の具体的到達目標
 - ・東京都障害者スポーツ大会優勝
 - ・特体連バスケットボール大会優勝
 - ・2大大会二冠

3 指導方針

- (1) 部活動の質と量の工夫
 - ・練習は、原則週に3～4日間程度とし、練習時間は、平日2時間、休日3時間を基本とする。
 - ・生徒が安全に実施できるように練習メニューを定着させ、自主的にできるようにする。
 - ・常に安全に実施できる指導体制を整えるように留意すると共に、生徒間で教えあうことができるように指導していく。
- (2) 練習や試合等の計画
 - ・毎月1回程度、校内外で近隣の学校と練習会及び練習試合を行う。
 - ・競技力を高めるため、普通高校との練習の機会を長期休業中などに設ける。
- (3) 基本的な生活習慣や規範意識等の健全育成
 - ・挨拶や返事を通して豊かな人間関係を築くと共に、学年間やチーム間でのコミュニケーションの機会を多く設け、集団の中で自分を表現する力を身に付ける。
- (4) 生徒相互の人間関係
 - ・チームとして活動していく中で、協調性や責任感を育成する。
 - ・個と集団の関係性を常に意識させ、その中で望ましい行動の在り方を考えさせる。
- (5) 学習と部活動
 - ・学校生活を適切に送ることを第一とし、その上で部活動へ参加する。
 - ・就業技術科生徒として、現場実習やインターンシップなど職業に関する学習を優先に考える。

4 指導内容・方法

(1) 体罰・暴言等のない指導

- ・科学的トレーニングやスポーツ理論に基づく指導により、体罰、暴力的指導のない部活動を展開していく。その際、体罰関連行為のガイドラインや体罰根絶映像資料（DVD）を活用して、顧問と外部指導員で共通理解を図る。

(2) 生徒間の暴力禁止

- ・運動部活動の生徒に対して、上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。

(3) 外部指導員の活用

- ・顧問と外部指導員のそれぞれの役割について話し合うと共に、常に複数の教員と指導員で指導を実施できるように体制を工夫する。

(4) 事故防止・安全配慮

- ・生徒の心身の発育・発達や体力・技術等を適切に把握して活動計画を立てる。

(5) 補食について

- ・運動中のエネルギー切れを補うため、プロテイン等の補食を摂れるようにする。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
前期	4	生徒会部活動紹介 仮入部期間
	5	部活動保護者会（指導方針などを説明） 練習試合等
	6	練習試合等
	7	練習試合等
	8	障害者スポーツ大会 練習試合等
	9	練習試合等
後期	10	練習試合等
	11	練習試合等
	12	練習試合等
	1	練習試合等
	2	特体連バスケットボール大会
	3	練習試合等